

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立八雲小学校）

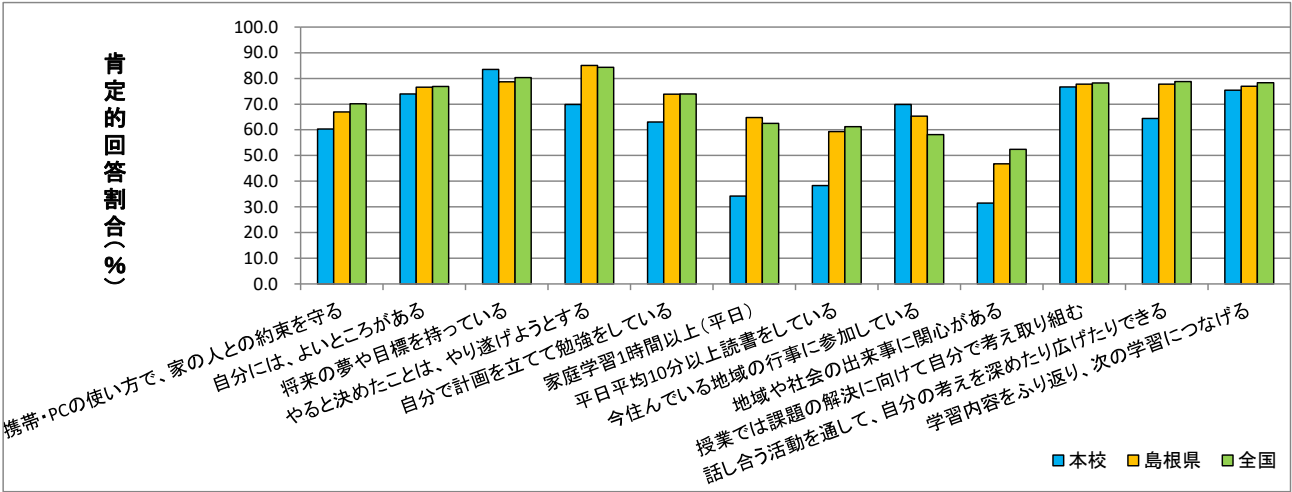
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
国語	○選択式の問題は比較的正答できている。 ●全国平均に比べて正答率の高い児童の割合が低く、平均正答率も下回っている。 ●記述式問題の正答率が低く、無回答も多い。 ●文章全体の構成を捉え、内容を的確に把握することが苦手。	・聞く必要のある場を意図的に設定し、聞く力の定着を図る。 ・長い文章を読む力や要旨をつかむ力を学年に応じて計画的に身に付けさせていく。 ・様々な文章に触れる機会を増やすために、図書館教育との連携を図る。
算数	○測定領域の正答率が高く、グラフの読みとりは全国平均と同等だった。 ●全国平均に比べて正答率の高い児童の割合が低く、平均正答率も大きく下回っている。 ●図形領域が苦手で公式の意味をつかめていない児童が多い。	・毎月行っている計算会の問題を工夫し、基礎的な計算力だけでなく、計算のきまりや公式の使い方などの定着を図る。 ・授業の中で、問題場面を図に表して読みとる活動や、式の意味を説明する活動を重視する。 ・ノート指導により細やかに評価して、個に応じた支援を行う。

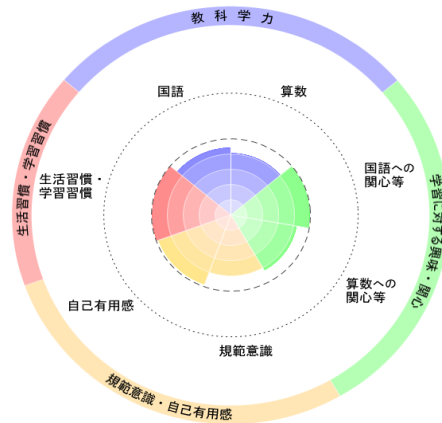
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対 策
○規則正しい生活リズムが身に付いている児童が多い。 ○夢や目標を持っている児童が多い。 ●全体的に家庭学習の時間が短い。(1時間未満が65.7%) ●話し合い活動の経験に乏しく、自分の考えや気持ちを相手に伝えようという意識も低い。	・家庭学習の手引きをもとに、家庭学習について指導していくとともに、宿題の内容を工夫する。また、学年に応じて自主学習を奨励していく。 ・各教科において対話的な学習を重視し、自分で考える力やそれを伝える力を育成していくよう心がける。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・道徳の充実を図り、人権意識を高めながら、学習を根本から支える「一人一人を大切に学び合える集団」をつくる。
- ・電子黒板や書画カメラ、タブレットなどのICT機器を効果的に活用し児童の学習意欲を高めるとともに、わかる授業をめざす。
- ・家庭との連携により、生活リズムの確立やメディアコントロールを大切にし、学習に向かう素地を固めていく。

【受検者数】 72 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。